

かわむらこどもクリニック NEWS

Volume 33 No 9

384号

令和 7年10月 2日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255 HOMEPAGE <https://www.kodomo-clinic.or.jp/>

仙台みやぎの訪問クリニック 院長

今月号も変わったテーマですが、よろしくお付き合いください。1993年に「かわむらこどもクリニック」が誕生しました。開業以来30年以上にわたり、「お母さんの不安・心配の解消」を理念として診療にあたるだけでなく、さまざまな子育て支援活動を続けてきました。病気の治療だけでなく、子どもを育てる家庭に寄り添い、日々の暮らしに潜む不安・心配を解消し安心へと繋げることを目的にスタッフと共に走り続けてきました。診察室では、熱や咳を訴える子どものそばに不安げなお母さんが座っています。その表情に寄り添いながら、私たちは一人ひとりの物語を共に紡いできました。

この理念は、単なる診療方針ではありません。小児科医療を通して地域の中に根づき、医療法人全体の背骨となりました。そして今、その理念が新たな形となって次の世代へと引き継がれようとしています。今月1日に、息子の雄剛が「仙台みやぎの訪問クリニック」を開業いたします。この話が始めると誰彼構わず「息子さんは跡を継がないのですか」との疑問が投げかけられます。親としては心の底で望んでいたことに間違いがありません。ところが昨年夏北海道に住んでいた息子から「将来に関する重要な話がある」と帰省しました。息子のこれまでの医師人生、周囲の診療環境、小児科としての難しさ、さらには在宅医療の意義と将来的展望に関して聞かされました。親を相手にしての話にも関わらず、PowerPoint40枚、約1時間のまさにプレゼンテーションと呼べるものでした。この熱意とプレゼンに感動すら覚え聴き終わったあと、息子の成長を肌で感じ、何の迷いも躊躇いもなく訪問クリニック開業に賛同していました。その裏には別なエピソードが隠れているのです。私の父は川村内科小児科を開業していました。私は新生児医療のため日立製作所日立総合病院NICU立ち上げの関わり勤務を続けていました。その最中父が亡くなりましたが、自分には日立市の新生児医療を充実させるという使命感を理由に仙台に戻ってきませんでした。父の死後4年経って親不孝息子はやっと父の思いを感じ仙台に戻り同じ場所でもかわむらこどもクリニックを立ち上げたのです。

雄剛は北海道で消化器内科医として研鑽を積み、二つの病院で在宅医療部門を立ち上げる経験を重ねてきました。病院に通えない患者さんの家を訪ね、その暮らしの中に入り込み、病や老いに直面するご本人やご家族と向き合ってきたのです。病院の中では見えなかった「生活そのものが医療の現場である」という真実を深く理解し、そこにこそ寄り添う医療の可能性があると感じてきました。

父は小児科医として、母と子の「はじまりの不安・心配」に寄り添ってきました。息子は内科医として、人生の終盤

に訪れる「終わりの不安・心配」に寄り添ってきました。

両者はまったく異なる世代と場面としても、対象者が違っても根底には「不安・心配の解消」という共通した理念があります。この理念というバトンが、親子二代の医師の間で受け渡され、今、医療法人全体の新しい挑戦へとつながっていくのです。

この挑戦の象徴が「ゆりかごから墓場まで」という言葉です。赤ちゃんの誕生から始まり、成長、成熟、老い、そして人生の最期に至るまで、誰もが不安を抱えます。小児科はその「最初の不安」に寄り添い、在宅医療はその「最後の不安」に寄り添います。その両者が力を合わせることで、人の一生を切れ目なく支えることができるのです。

在宅医療は特別なものではなく、むしろ日常の中に自然に存在し、生活を支える医療です。住み慣れた家で、家族と共に過ごしながらか療養すること。窓から差し込む朝の光や、台所から聞こえる日常の音の中で安心を得られること。そうした当たり前を守ることこそ、在宅医療の価値です。雄剛がこれまで積み重ねてきた経験は、この価値を実感させ、仙台の地域に根差した実践へと結実します。

そしてこの物語は、単なる親子二代の継承ではありません。父が築いてきた「地域に根づいた小児科」と、息子が担う「生活に入り込む在宅医療」とが出会うとき、医療法人としてのビジョンは一層大きな広がりを見せます。かわむらこどもクリニックと仙台みやぎの訪問クリニックが両輪となり、子どもから高齢者まで、そして人生の最後の瞬間まで支え抜く「ゆりかごから墓場まで」を現実のものとする歩みが、ここから始まるのです。

これからの挑戦は決して平坦ではありません。在宅医療は患者さんご本人だけでなく、ご家族や地域の支援者との連携なしには成り立ちません。しかし、だからこそ「不安を安心に変える」という理念を軸に、誰も取り残さない医療を築いていく価値があります。親子二代の医師が同じ理念を抱き、それぞれの経験を持ち寄って未来を拓いていく。その姿そのものが、地域医療の希望となるはずです。医療は人を支える営みであり、同時に物語を紡ぐ営みでもあります。診察室で涙したお母さん、家で最期を迎える患者さん、そしてそのそばで寄り添う家族。そのすべてが私たちに「医療の意味」を教えてください。私たちはこれからも、一人ひとりの物語に寄り添いながら、不安・心配の解消を追い求めていきます。

自分の親不孝の人生の反省から、強い決意を持って仙台に戻ってきてくれた息子には感謝しかありません。どうか、親子二代で挑むこの新しい歩みを温かく見守っていただき、さらなるご支援いただければ幸いです。



『かわむらこどもクリニックLINE公式アカウント』

登録よろしくね!! <https://lin.ee/GefJT90>(2面にQRコード)

読者の広場

先月はLINEによる医療相談も受けました。青葉区の高橋さんから「いつもお世話になっております。高橋〇〇です。#8000にも電話し、様子見て大丈夫とのことでしたが、心配なのでかわむら先生にも連絡させていただきました。〇〇母の実家にて息子がテーブル高さ80cm位から落下し、フローリングに後頭部を打ちました。鼻血も出ましたが5分以内には止まりました。落下後、なかなか泣き止みませんでしたが、落ち着いてからは普通に遊んで、今寝たところです。ぐったりしたりする様子もなく、見たところ外傷はないですが、鼻血の出た反対側の鼻の脇が痣のようになっていっているようです。変わった様子がなければ明日も様子見て大丈夫との#8000の回答を信頼しても大丈夫でしょうか。」心配等ないことと注意事項を伝えたと返信が届きました。「遅い時間にもかかわらず、ありがとうございます。数日間、気をつけて見ていたいと思います。変わった症状が出たらすぐに受診いたします。普段から落下など気を付けてはいますが、こんなことになってしまい、心配だし、主人にも責められるしで…押しつぶされそうになっていましたが、先生からのメッセージで安心いたしました。本当にいつもありがとうございます。」LINEで相談事を受けていることを知ってもらうため紹介しました。

大和町の吉田さんから診察直後に薬局からメッセージをもらいました。「先生、先ほどはありがとうございます😊彩花、先生に話を聞いていただいて「スッキリした😊先生のお話って響きが違うよね〜」って、朝とは表情が違いました！朝は「熱はないけどなんかダルいし…」って言って煮えきらなくて、ついモヤモヤイライラしちゃってましたが、先生に診てもらって良かったです。親子揃ってかわむら先生マジックでした😊」

若林区堀見さんから青森の発表会に無事行けたので「りんご煎餅」、青葉区の大沢さんからはお見舞いとしてヨーグルトの頂き物したので掲載します。ありがとうございます。



その人らしい時間を支えるために-仙台・原町で始める挑戦-

はじめまして。このたび仙台市宮城野区原町に「仙台みやぎの訪問クリニック」を開設することになりました。長男の川村雄剛（かわむらゆうご）です。

1983年に仙台で生まれ、杏林大学医学部を卒業後、地元の仙台赤十字病院で初期・後期研修を受けました。当初は小児科医を志していましたが、東日本大震災の経験を通じて「年齢や病気を問わず、一人ひとりに寄り添える医療を届けたい」という思いを強く抱くようになりました。その後は消化器内科・内視鏡診療を専門とし、がんの診断や治療、化学療法や緩和ケアに携わりながら、10年以上にわたり専門診療と並行して訪問診療にも取り組み、へき地医療、災害派遣、産業医や警察医といった多彩な活動を続けてきました。

これまで多くの現場を経験するなかで私が一貫して感じてきたのは、「その人らしい時間を支えることこそ医療の本質である」ということです。病院での最先端治療も、自宅で家族と笑顔を交わす日常も、どちらもかけがえのない人生の一部です。訪問診療は、その方の生活をまず尊重し、医療を押しつけるのではなく、暮らしの延長線上に自然に寄り添う営みだと考えています。

当院では大人の方だけでなく、通院が難しいお子さんへの訪問診療にも少しずつ取り組んでいきたいと思っています。地域事業所や先生方と連携しながら、できることから始めていきたいと考えています。

北海道での暮らしが長かったせいか、ちょっと“道産子っぽい”口調が出ることもありますが、それも含めて親しみを持っていただければ嬉しいです。これからは生まれ育った仙台そして原町の地で、住み慣れたご自宅や施設で安心して過ごしていただけるよう、丁寧に真っ直ぐに向き合ってまいります。

地域の皆さまと一緒に、新しい訪問診療のかたちを育てていけたらと願っています。どうぞよろしくお願いいたします。

仙台みやぎの訪問クリニック 住 所：仙台市宮城野区原町2-1-59-2

TEL：022-352-6739



10月のお知らせ

・インフルエンザ予約受付中

時間料金は右を参考に
他のワクチンと同時接種可能です。
予約、問い合わせはお電話で

・栄養・育児相談

1・15日（水）

栄養士担当 参加無料



インフルエンザワクチン予約受付中

・不活化ワクチン（注射）

接種回数 6ヶ月以上13歳未満 2回 13歳以上 1回

接種料金 1回 3500円（税込み）

・生ワクチン（フルミスト；鼻から噴霧）

接種回数 2～19歳未満 1回

接種料金 1回 8000円（税込み）

・接種時間 月火水金：14:00～15:00・16:00～17:00、土：12:00～13:00

接種は10月1日から実施中です。高齢者インフルエンザ、高齢者肺炎球菌、コロナワクチンの接種も行っています。フルミストは入荷時期でお待ちいただくことがあります。



HomePage Facebook LINE の紹介

Facebook、LINE は 1000 人を越える登録があり、多くの人が利用しています。リニューアルしたHPでは問い合わせと相談も可能になりました。Messengerも合わせてご利用ください。不明な点は受付まで。



HomePage



Facebook



LINE

発熱外来のご案内

発熱で受診される方は、来院前に電話して指示を受けてください。発熱外来専用入り口を案内します。

編集後記

手術後5ヶ月を過ぎましたが、3週に1回の化学療法も行っています。体長に幅がありますが、それなりに元気にしています。今月誕生日を迎え多くの人たちにお祝いしてもらって、本当にありがたいことです。皆さんの応援と息子の開業を良い刺激と捉え、もうしばらく頑張りますので、よろしくお願いします！



K's clinic

世界各国で麻しんが流行しています

『1才のお誕生日に麻しん風しん混合ワクチンを！』